

# 学区探訪

郷土史大より  
一・十六  
五号

## 辻の地蔵

現在上里は一丁目・二丁目・三丁目と三つに分かれています。人口増加によって昭和五十三年に分けられるまで一つの上里村でした。しかしさらにその昔、上里村は「上の切」「下の切」の二つに分かれていました。上の切は現在の二丁目のあたり、下の切は現在の三丁目のあたりです。上の切には約三十戸、下の切には約十戸の家があり、これが上里の全人口でした。つまり

二丁目には家はなく田畑が広がっていました。そして、上の切・下の切へ向う分岐点にお地蔵さまがおまつりしてありました。人々は「辻の地蔵」と呼び道中の安全を祈りました。場所は今の尾崎酒店のあたりです。上里公民館の入口に四角い石に刻まれたお地蔵さまがありますが、これがその「辻の地蔵」です。時には道しるべともなり時には村人の道中を守ってくれたお地蔵さまです。村の子どもたちも「辻の地蔵」の前を通る時は必ず手を合わせるように言われていたそうです。

# 学区探訪

郷土史大より  
一・十七  
六号

## 神領

前号に書きましたように、上里村は昔「上の切」と「下の切」の二つに分かれていました。「上の切」は東上里とも呼ばれていましたが、土地の人々は「神領」と呼ぶことが多かったようです。それは、ここが伊賀八幡宮の神社領だったからです。神領は下の切に比べ、土地もせまく人口も少なかったのですが、伊賀八幡宮の神社領であることをとて誇りに思っていました。村

の祭りに伊賀八幡宮の神官が直々にやってくるのが自慢だったそうです。また、伊賀八幡宮の祭りには鏡餅をもって手伝いに行ったそうです。

上里の上の切は渡船場があり軍事上の拠点でもありました。そこで幕府はここを徳川氏と関係の深い伊賀八幡宮の神領としたとも考えられます。神領に関する資料は、戦前に伊賀八幡宮の社司で岡崎図書館長でもあり岡崎市史の著者としても有名な柴田頭正によってもち出されたが戦災で焼けてしまったということです。

# 学区探訪

郷土堂だより

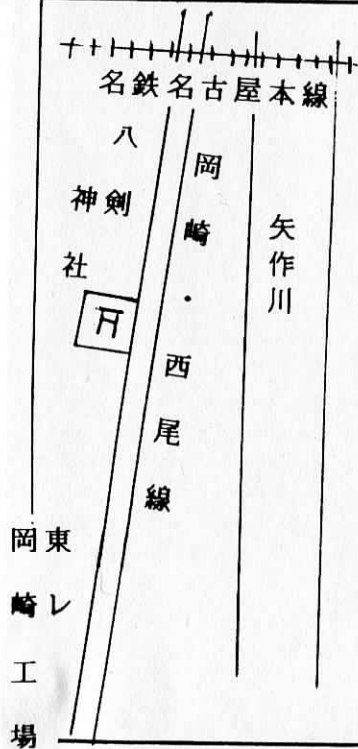
一・十九  
七号

もう一つの

## 八劍神社

上大門にある神社を「八劍神社」ということは学区の人ならだれでも知っていることだと思います。矢作の東レ岡崎工場の近くにも八劍神社というのがあります。そして神社というのは普通南向きに建てられるものですが、この神社は珍しく北向きに建てられています。この二つの八劍神社については言伝えがあるので。

昔、矢作川の洪水によって大門の八劍神社は流されてしまいました。その後、八劍神社の一部が矢作のこの地に流れつきました。そこでここにも八劍神社が建てられたというのです。しかも大門の方角、つまり北向きに建てられたのです。祭神は矢作の八劍神社も大門の八劍神社と同じく日本武尊と天照大神です。



# 学区探訪

郷土堂だより

一・二十  
八号

移転した寺院

前号で八劍神社が矢作川の洪水によって流されたという話を書きました。矢作川の洪水で流されたのは神社ばかりではありません。洪水で流されて移転したお寺もあるのです。

中大門に勝蓮寺公園という公園があります。この勝蓮寺というのは地名で昭和五十三年に町名変更されるまで、大字大門小字勝蓮寺がこの住所でした。この地名から

もわかるように昔ここに勝蓮寺というお寺がありました。現在の勝蓮寺公園の南あたりにあったといわれています。かなり古く奈良時代からあったが、兵火にあって焼失したり、矢作川の洪水で流失したりして矢作に移転しました。現在、矢作橋を渡ったところに勝蓮寺というお寺がありますが、このお寺が中大門から移転したと考えられます。この矢作の勝蓮寺は今でも中大門にたくさん檀下をもっています。また、能見にある覚恩寺も大門に檀下をもっており大門から移転したといわれています。

# 学区探訪

一・二十一  
郷土屋たより  
九号

## （ 藪田の大庄屋 ）

昔、岡崎藩は藩領を六つの手永という行政区画に分割し、各手永ごとに大庄屋をおいて統轄させていました。その中の一つを管轄していたのが藪田の神尾家なのです。

- 幕末の各手永の大庄屋を調べてみると、
- 川西手永 下佐々木 太田伊兵衛
- 上野手永 中園 岩槻吉兵衛
- 山方手永 六名 斎藤孫右衛門
- 堤通手永 中ノ郷 長島力三郎

- 額田手永 藪田 神尾彦右衛門
- 東山中手永 洞 永井利右衛門

とあります。この額田手永は、三十七つの村におよぶ広大なもので八千石から一万石を統轄していました。大庄屋神尾家の力のほどをうかがい知ることができます。

神尾家では、彦右衛門・彦四郎と二代続いて大庄屋になりました。そして、彦四郎の時、明治維新をむかえました。明治四年の廃藩置県により岡崎藩がなくなり、かわって額田郡がおかれると彦四郎は初代の額田郡長になっています。

# 学区探訪

一・二十二  
郷土屋たより  
十号

## （ 統・藪田の大庄屋 ）

藪田の神尾彦四郎は明治5年（壬申年）初代額田郡長になりました。彦四郎の曾孫にあたる神尾幸男さんの家に次のような辞令が残されています。

神尾彦四郎  
郡長申付候事  
壬申二月  
額田県

額田郡はその後、額田県の第七大区となりますが、彦四郎は第七大区長にもなっています。さらに第一回愛知県議会の議員となります。愛知県議会史第一巻を見ると、

- 藪田村 神尾彦四郎
- 明治十二・五〜明治十三・十 在職一年六ヶ月
- 自由派・元第七大区長
- 天保十一・八・四生
- 明治十五・二・一死去

とあります。彦四郎は三十才前に大庄屋となり、大きな体だったといわれています。